



大村和志さん
「町内ぶら〜り散策」執筆者



まだまだ知らないことばかり

この広報紙の連載「町内ぶら〜り散策」を書き続けている人がある。大村和志さん。2023年11月、河内地区の取材に同行した。

神戸市出身。グラフィックデザイナーとして働いていた頃に有機農業と出会い、2000年、「有機農業のグループをつくらう」と誘われ十和村へ。当時は30代だった。

合併後のある時、「広報誌を刷新したい」と役場職員に相談され、まるごと引き受けた。2007年5月に『四万十町通信』を創刊。地域話題を拾い、地域の人、役場職員の顔を前に出した。企画の一つが「ぶら〜り散策」の前身。翌年から制作を離れたが、連載は書き続け、それからずっと、地域を丹念に歩いてきた。

大村さんの取材は探偵の推理のように進む。手元には分厚い手帳。地域の歴史書も持ち込んで、石碑や木札、古い写真を読んでいく。大村さんの話を受け、取材相手からも言葉が出て、それをヒントに取材がまた進む。

大村さんの手が止まった。
「この地蔵は？」

集会所の和室に移された永徳山高雲寺の仏像の前に、解説を添えながら「なかなかの仕事してますよ」。

案内役の区長の顔が、ぱっと明るくなって言う。「確かに。大事にせないかん。次の会でみんなに話そう」

地域を歩く。話をする。調べる。記す。取材を通じて、地域の人が自分の土地の文化の「価値」に気づいてくれる瞬間がうれしいという。

取材の過程に「ぶら〜り」という軽さはない。聞くと、連載当初のタイトルは「知っているようで知らない私たちの町」。「1つの町になるのだから、互いを知れるように」と願って始めた連載だ。だから、「きちんとした書き物に」と、取材する地域と向き合ってきた。

実際、どの地区でも新たな発見があった。人に会えば新たな話が飛び出して、1つ知れば景色は変わった。

「まだまだ知らないことばかり。全ての地域で『行ってよかった』と思っています」

残すは十数地区。深く、深く潜り込む大村さんの「散策」は、もうしばらく続いていく。



四万十高校の魅力

学校ホームページが新しくなりました。
<https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/shimanto-h>
noteも始めました。公式Instagramと合わせて、ぜひフォローしてください！！



令和5年11月18日（土）ミニ文化祭 at きらら大正 「四万十町と共に生きる～魅力の再確認～」

総合的な探究の時間や授業、部活動などで四万十町の魅力を再確認する学習をしたものを、展示や販売などの形で発表しました。
活動へのご協力、そしてたくさんの方のご来場ありがとうございました。



1・2年 は協力者 (敬称略)	四万十ひのき【森林組合、四万十生産】燻製の販売など	3年生	個人探究活動の展示
	食【無手無冠】甘酒販売	農業	農作物販売
	文化・祭り【幡多神楽保存会、四万十ケーブルテレビ】 展示、動画上映、紙芝居、クイズ	商業	もりだばぼーい・がーのの ボーリング体験
	有機農業【桐島畑、LIFE】 野菜の主張、クイズ、カフェ	家庭科 家庭科部	活動内容紹介
	川・景観チーム 展示、クイズ	自然環境部	標本などの展示
P T A 魅力化	写真の展示、健康ゲーム、飲み物の販売 学校紹介	音楽部	オープニングセレモニー演奏
外部出店協力者 いごはち、ゆりパン、道の駅四万十大正、焙煎工房たけうち、町営塾「じゅうく。」（敬称略）			



19歳、未来が動き出す。

高校受験まであともう少し。戦略的に勉強を進めよう！

「じゅうく。」の中学部では、毎週英語の授業を実施しています。高校受験まであとわずかということで、最近では高校入試の過去問を用いた授業を行っています。「どんな授業をしているの？」という皆さんへ向けて、授業の内容を一部紹介させていただきます！

攻略方法を知る

問題が解けたかどうかは、モチベーションに大きく関わってきますよね。大事なのは、**問題の攻略方法**を知ることです。選択問題の選び方、リスニングの聴き方、長文の解き方など。それが分かれば、結果的に点数が取れるようになります。

具体的には

「長文問題を見ると嫌気が差してしまう...」そんな方もいらっしゃるのではないのでしょうか。長文問題で大事なのは、**探すところを決めて読み始める**ことです。つまり、問題で何を聞かれているのかを先に理解すれば、それについて触られている部分を探せば良いのです。最初はただの長い英文に見えても、宝探しのようにヒントを見つけながら読み進めることができます。



授業では、過去問を扱いながら「どう攻略するか」という視点で問題を解いています。内容が気になる方は、ぜひ授業の見学に起こしてください！



お問い合わせ先 町営塾「じゅうく。」 ☎ 22-3163

未来のwaza!! 町にはこんなwazaも 女子バレーの県選抜チームで奮闘！ 田井璃空さん 窪川中学校3年

小学生の時は黒潮町のジュニアクラブに週4日通って練習。中学では力強いスパイクを武器に県選抜チーム(12人)に入った。仲間が見つないだボールを全力で打ち込む。「アタックをブロックされても、それをはじき飛ばして絶対決めます!!」



こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。